

加納城本丸内のこれまでの発掘調査

加納城に関する記録はたくさんありますが、本丸の様子はあまりわかりません。ところが、昭和58年から続く発掘調査で、記録に無い事実や伝承されていたことが確かめられてきました。発掘によって発見された新たな事実をご紹介します。

中世加納城の発見！（平成11年度）

本丸南門の内側で行った発掘調査では、今では失われてしまった江戸時代の土塁と、中世加納城の土塁が発見されました。江戸時代の文献にも、家康は戦国時代の城跡に加納城を造ったと書かれていますが、本当のところは確認されていませんでした。この発掘調査で、証拠が見つかり、間違いなく中世加納城を埋め立て、江戸時代の加納城を造ったことがわかりました。戦国時代の地面は現在の地面より約2m下にあります。



本丸内に御殿？（平成元～2年度）

本丸南門の外側の堀で行った発掘調査で、盛土の中から大量の焼物（陶磁器）が出土しました。この盛土は本丸の中から運び出されたと考えられることから、本丸内に御殿があったのではないかと推定できます。これらの焼物は17世紀の初め頃のものがほとんどであるため、御殿は江戸時代の最初に造られ、取り壊されたと考えられます。



本丸内で火事？（平成15年度）

本丸大手の北側の堀で多量の瓦が出土しました。中に火事で焼けたものも含まれており、本丸で火事が発生し、その時のゴミを堀に捨てたと考えられます。二の丸で火事があった記録はありますが、本丸で起こった記録は現在のところ見つかりません。



今年度の発掘調査

今年度の発掘調査は御殿の痕跡を見つけることを目的として行っています。残念ながら決定的な証拠は今のところ確認できていませんが、可能性を高める結果が得られています。

西側の調査区で自衛隊時代の鉄塔の基礎が見つかりました。基礎を造るための穴は現在の地面より2.5m下にまで達していて、埋め戻した土の中から戦国時代の皿が多く出土しました。これまでの発掘で、約2m下には戦国時代の地面が確認できていることから、この場所にも中世加納城の一部が広がっていた可能性が高いです。

西側の調査区では、江戸時代のものとみられる盛土が、現在の地面より90cm下で見つかりました。盛土の中には瓦が多量に入っており、ある時期に本丸内を大改修したことがわかりました。瓦の一部は火事で焼けており、火事の跡片づけを兼ねた改修であった可能性が高いと思われます。残念ながらどんな建物が焼けたのかはわかりませんが、御殿であった可能性もあります。

土塁の改修

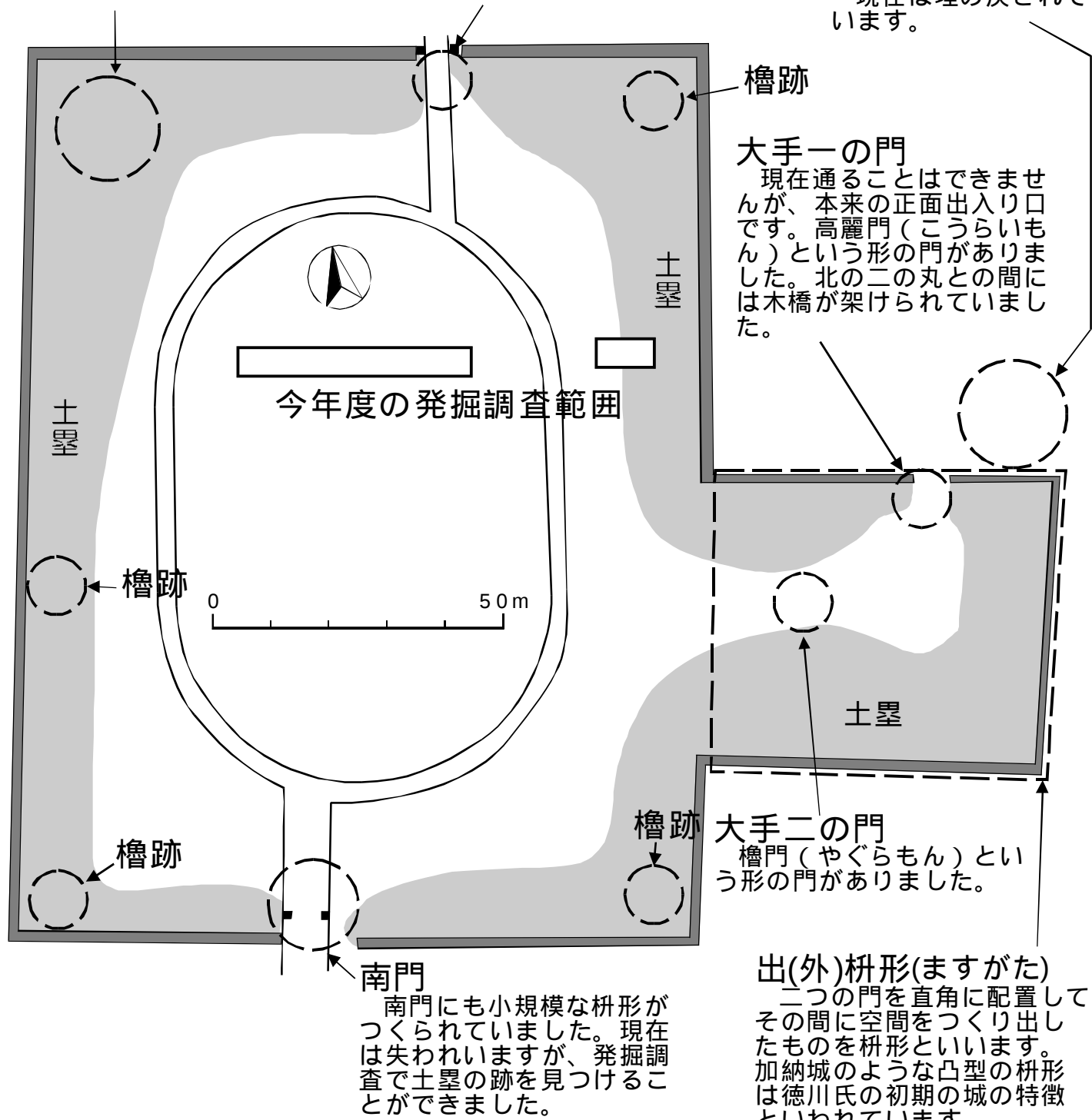
東側の調査区では土塁の造り方を調べるための調査を行いました。大部分が自衛隊などの施設で壊されてしまっていますが、現在残っている土塁は江戸時代のある時期に造り直されていることがわかりました。

加納城本丸（加納城址公園）案内図

「天守台」
土塁でも一番高いこの場所は江戸時代の絵図に「天守台」と書かれています。天守が建てられたかどうかはわかりません。

北門
埋門（うずみもん）とい
う形の門があったところ
です。江戸時代には常設
の橋は無かったようです。

堀障子発見場所
現在は埋め戻されています。



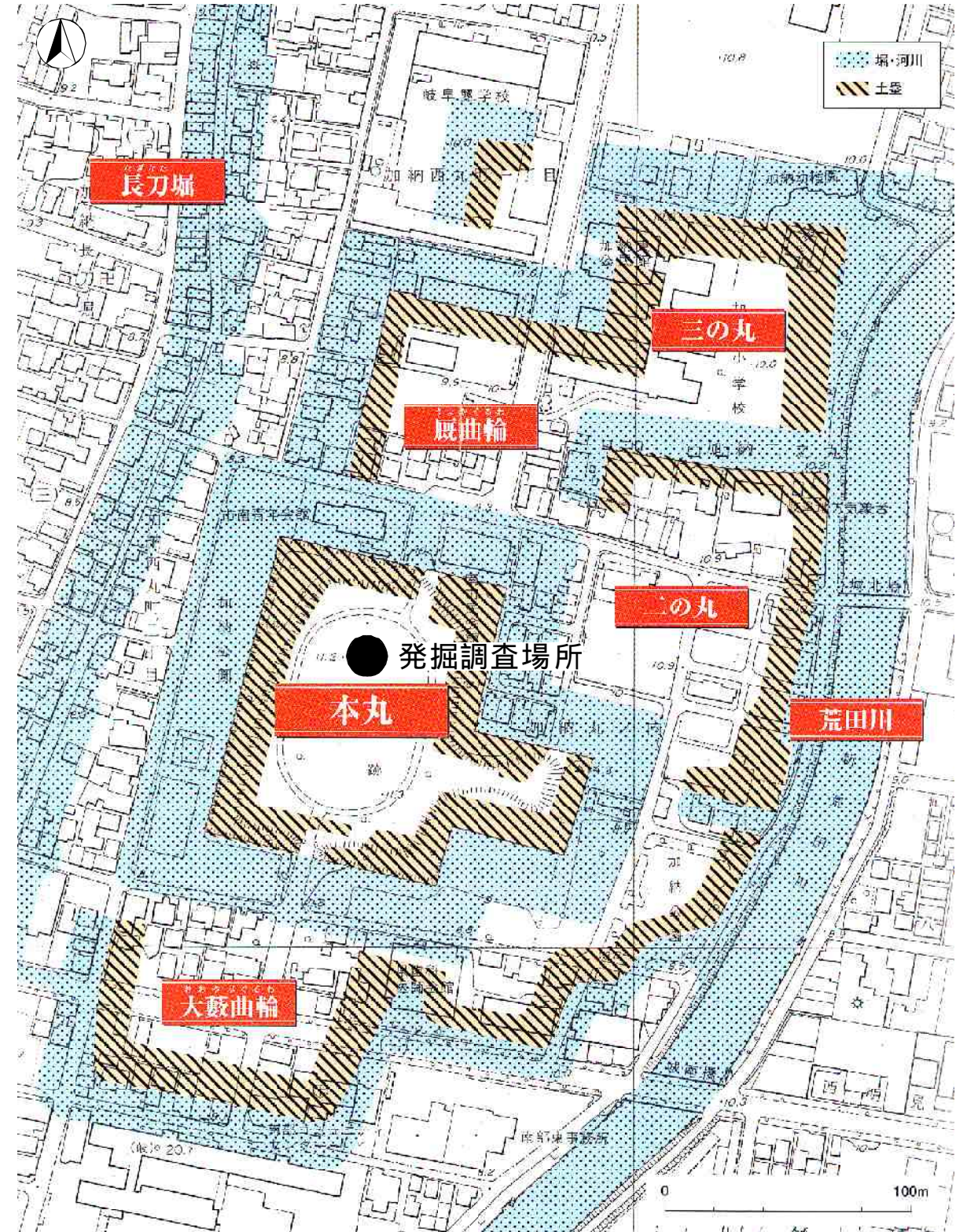
【お問い合わせ先】

岐阜市教育委員会 社会教育室 058-265-4141 (内線6357)
(財)岐阜市教育文化振興事業団 埋蔵文化財調査事務所
058-241-8122 URL <http://www.gifu-gif.ed.jp/org/maibun/>

加納城跡発掘調査現場見学会資料

「加納の日！　－ 再び－」

平成18年11月25日(土)
10:30~12:30



岐阜市教育委員会
(財)岐阜市教育文化振興事業団